校異源氏物語・さか木

斎宮の御くたりちかう成ゆくまゝに御息所ものこゝろほそくおもほすやむことなくわつらはしきものにおほえたまへりし大殿の君もうせ給てのちさりともと世人もきこえあつかひ宮のうちにも心ときめきせしをそのゝちしもかきたえあさましき御もてなしをみ給にまことにうしとおほす事こそありけめとしりはて給ぬれはよろつのあはれをおほしすてゝひたみちにいてたち給おやそひくたり給れいもことになけれといとみはなちかたき御ありさまなるにことつけてうき世を行はなれむとおほすに大将の君さすかにいまはとかけはなれ給なむもくちおしくおほされて御せうそこはかりはあはれなるさまにてたひ　くかよふたいめし給はんことをはいまさらにあるましきことゝ女君もおほす人は心つきなしと思をき給事もあらむにわれはいますこしおもひみたるゝ事のまさるへきをあいなしと心つよくおほすなるへしもとの殿にはあからさまにわたり給おり　くあれといたうしのひたまへは大将殿えしり給はすたはやすく御心にまかせてまうてたまふへき御すみかにはたあらねはおほつかなくて月日もへたゝりぬるに院のうへおとろ　くしき御なやみにはあらてれいならす時　くなやませ給へはいとゝ御心のいとまなけれとつらき物に思はて給なむもいとおしく人きゝなさけなくやとおほしをこして野の宮にまうて給九月七日はかりなれはむけにけふあすとおほすに女かたも心あはたゝしけれとたちなからとたひ　く御せうそこありけれはいてやとはおほしわつらひなからいとあまりうもれいたきを物こしはかりのたいめはと人しれすまちきこえ給けりはるけきのへをわけいり給よりいとものあはれなり秋の花みなおとろへつゝあさちか原もかれ　くなるむしのねに松風すこく吹あはせてそのことゝもきゝわかれぬほとにものゝねともたえ

　くきこえたるいとえんなりむつましきこせむ十よ人はかりみすいしむこと

　くしきすかたならていたうしのひ給へれとことにひきつくろひ給へる御ようゝとめてたくみえ給へは御ともなるすきものとも所からさへ身にしみて思へり御心にもなとていままてたちならさゝりつらむとすきぬるかたくやしうおほさるものはかなけなるこしはかきをおほかきにていたやともあたりあたりいとかりそめなりくろ木のとりゐともさすかにかう　くしうみわたされてわつらは

しきけしきなるにかむつかさの物ともこゝかしこにうちしはふきてをのかとち
ものうちいひたるけはひなともほかにはさまかはりてみゆひたきやかすかにひ
かりて人けすくなくしめ　くとしてこゝにもの思はしき人の月日をへたて給へ
らむほとをおほしやるにいといみしうあはれに心くるしきたのたいのさるへき
所にたちかくれ給ひて御せうそこきこえ給にあそひはみなやめて心にくきけは
ひあまたきこゆなにくれの人つての御せうそこはかりにて身つからはたいめし
給へきさまにもあらねはいとものしとおほしてかうやうのありきもいまはつき
なきほとになりにて侍をおもほししらはかうしめのほかにはもてなし給はてい
ふせう侍事をもあきらめ侍にしかなとまめやかにきこえ給へは人〻けにいとか
たはらいたうたちわつらはせ給にいとおしうなとあつかひきこゆれはいさやこ
ゝの人めもみくるしうかのおほさむこともわか　くしういてゐんかいまさらに
つゝましきことゝおほすにいとものうけれとなさけなうもてなさむにもたけか
らねはとかくうちなけきやすらひてゐさりいて給へる御けはひいと心にくしこ
なたはすのこはかりのゆるされは侍りやとてのほりい給へりはなやかにさしい
てたるゆふつくよにうちふるまひ給へるさまにほひににるものなくめてたし月
ころのつもりをつき　くしうきこえ給はむもまはゆき程になりにけれはさか木
をいさゝかおりても給へりけるをさしいれてかはらぬ色をしるへにてこそいか
きもこえ侍にけれさも心うくときこえ給へは

　神かきはしるしのすきもなきものをいかにまかへておれるさか木そときこ
え給へは

　をとめこかあたりとおもへはさか木はの香をなつかしみとめてこそおれお
ほかたのけはひわつらはしけれとみすはかりはひききてなけしにおしかゝりて
ゐ給へり心にまかせてみたてまつりつへく人もしたひさまにおほしたりつると
し月はのとかなりつる御心おこりにさしもおほされさりきまた心のうちにいか
にそやきすありて思きこえ給にしのちはたあはれもさめつゝかく御中もへたゝ
りぬるをめつらしき御たいめのむかしおほえたるにあはれとおほしみたるゝ事
かきりなしきしかたゆくさきおほしつゝけられて心よはくなき給ぬ女はさしも
みえしとおほしつゝむめれとえしのひ給はぬ御けしきをいよ　く心くるしうな
をおほしとまるへきさまにそきこえ給める月もいりぬるにやあはれなる空をな
かめつゝうらみきこえ給にこゝら思ひあつめ給へるつらさもきえぬへしやう

　くいまはとおもひはなれ給へるにされはよと中　く心うこきておほしみたる
殿上のわかきむたちなとうちつれてとかくたちわつらふなるにはのたたすまひ

もけにえんなるかたにうけはりたるありさまなりおもほしのこすことなき御なからひにきこえかはし給事ともまねひやらむかたなしやう　くあけ行空のけしきことさらにつくりいてたらむやう也

あかつきのわかれはいつも露けきをこは世にしらぬ秋の空かないてかてに御てをとらへてやすらひ給へるいみしうなつかしかせいとひやゝかに吹て松むしのなきからしたるこゑもおりしりかほなるをさして思事なきたにきゝすくしかたけなるにましてわりなき御こゝろまとひともに中　くこともゆかぬにや

おほかたの秋のわかれもかなしきになくねなそへそのへのまつむしくやしき事おほかれとかひなけれはあけ行空もはしたなふていて給みちのほといと露けし女もえ心つよからすなこりあはれにてなかめ給ほのみたてまつり給へる月影の御かたち猶とまれるにほひなとわかき人〻は身にしめてあやまちもしつへくめてきこゆいかはかりのみちにてかゝる御ありさまをみすてゝはわかれきこえんとあいなく涙くみあへり御ふみつねよりもこまやかなるはおほしなひくはかりなれと又うちかへしさためかね給へき事ならねはいとかひなしおとこはさしもおほさぬ事をたになさけのためにはよくいひつゝけ給ふへかめれはましてをしなへてのつらには思ひきこえ給はさりし御なかのかくてそむき給なんとするをくちおしうもいとをしうもおほしなやむへしたひの御さうそくよりはしめ人〻のまてなにくれの御てうとなといかめしうめつらしきさまにてとふらひきこえ給へとなにともおほされすあは　くしう心うきなをのみなかしてあさましき身のありさまをいまはしめたらむやうにほとちかくなるまゝにおきふしなけき給斎宮はわかき御心ちにふちやうなりつる御いてたちのかくさたまりゆくをうれしとのみおほしたり世人はれゐなき事ともときもあはれかりもさま　くにきこゆへしなにことも人にもときあつかはれぬきはゝやすけなりなか　く世にぬけいてぬる人の御あたりはところせきことおほくなむ十六日かつら河にて御はらへしし給つねのきしきにまさりて長ふそうしなとさらぬかむたちめもやむことなくおほえあるをえらせ給へり院の御心よせもあれはなるへしいて給ふ程に大将殿よりれいのつきせぬ事ともきこえ給へりかけまくもかしこきおまへにてとゆふにつけてなる神たにこそ

やしまもるくにつみ神もこゝろあらはあかぬわかれの中をことはれおもふたまふるにあかぬ心ちし侍かなとありいとさはかしきほとなれと御かへりあり宮の御をは女へたうしてかゝせ給へり

くにつかみ空にことはる中ならはなをさりことをまつやたゝさむ大将は御

ありさまゆかしうてうちにもまいらまほしくおほせとうちすてられてみをくらむも人わろき心ちし給へはおほしとまりてつれ　くになかめゐ給へり宮の御かへりのおとな　くしきをほをゑみてみゐ給へり御としのほとよりはおかしうもおはすへきかなとたゝならすかうやうにれいにたかへるわつらはしさにかならす心かゝる御くせにていとようみたてまつりつへかりしいはけなき御ほとをみすなりぬるこそねたけれ世中さためなけれはたいめするやうもありなむかしなとおほす心にくゝよしある御けはひなれはものみくるまおほかるひなりさるの時にうちにまいり給宮すん所御こしにのり給へるにつけてもちゝおとゝのかきりなきすちにおほし心さしていつきたてまつり給しありさまかはりてするゑの世にうちをみ給にもものゝみつきせすあはれにおほさる十六にてこ宮にまいり給て廿にてをくれたてまつり給卅にてそけふまたこゝのへをみ給ける

そのかみをけふはかけしとしのふれと心のうちにものそかなしき斎宮は十四にそなり給けるいとうつくしうおはするさまをうるはしうしたて　くまつり給へるそいとゆゝしきまてみえ給をみかと御心うこきてわかれのくしたてまつり給ほといとあはれにてしほたれさせ給ぬいて給をまちたてまつるとて八省にたてつゝけたるいたし車とものそてくち色あひもめなれぬさまに心にくきけしきなれは殿上人ともゝわたくしのわかれおしむおほかりくらういて給て二条よりとうゐむのおほちをおれ給ふほと二条の院のまへなれは大将の君いとあはれにおほされてさかきにさして

ふりすてゝけふはゆくともすゝか河やそせの浪に袖はぬれしやときこえ給へれといとくらうものさはかしき程なれは又の日せきのあなたよりそ御返しある

すゝか河やそせのなみにぬれ　くすいせまてたれかおもひをこせむことそきてかき給へるしも御ていとよし　くしくなまめきたるにあはれなるけをすこしそへ給へらましかはとおほすきりいたうふりてたたならぬあさほらけにうちなかめてひとりこちおはす

ゆくかたをなかめもやらむこの秋はあふさか山を霧なへたてそにしのたいにもわたり給はてひとやりならすものさひしけになかめくらし給まして旅の空はいかに御心つくしなる事おほかりけん院の御なやみ神な月になりてはいとおもくおはしますし世中におしみきこえぬ人なしうちにもおほしなけきて行幸ありよはき御心ちにも春宮御事をかへす　くきこえさせ給てつきには大将の御事侍つる世にかはらす大小のことをへたてすなにことも御うしろみとおほせよはひ

のほとよりはよをまつりこたむにもおさ　くはゝかりあるましうなむみ給ふるかならす世中たもつへきさうある人なりさるによりてわつらはしさにみこにもなさすたゝ人にておほやけの御うしろみをせさせむと思給へしなりその心たかへさせ給なとあはれなる御ゆいこむともおほかりけれと女のまねふへきことにしあらねはこのかたはしたにかたはらいたしみかともいとかなしとおほしてさらにたかへきこえさすましきよしをかへす　くきこえさせ給御かたちもいときよらにねひまさらせ給へるをうれしくたのもしくみたてまつらせ給かきりあれはいそきかへらせ給にもなか　くなる事おほくなん春宮もひとたひにとおほしめしけれとものさはかしきによりひをかへてわたらせ給へり御としのほとよりはおとなひうつくしき御さまにて恋しとおもひきこえさせ給けるつもりになに心もなくうれしとおほしみたてまつり給ふ御けしきいとあはれなり中宮は涙にしつみ給へるをみたてまつらせ給もさま　く御心みたれておほしめさるよろつのことをきこえしらせ給へといと物はかなき御ほとなれはうしろめたくかなしとみたてまつらせ給大将にもおほやけにつかうまつり給へき御心つかひこの宮の御うしろみし給へきことをかへす　くの給はす夜ふけてそかへらせ給のこる人なくつかうまつりてのゝしるさま行幸におとるけちめなしあかぬほとにてかへらせ給をいみしうおほしめすおほきさきもまいり給はむとするを中宮のかくそひおはするに御心をかれておほしやすらふほとにおとろ　くしきさまにもおはしまさてかくれさせ給ぬあしを空に思まとふ人おほかり御くらみをさらせ給といふはかりにこそあれよのまつりことをしつめさせ給へる事も我御世のおなし事にておはしまいつるをみかとはいとわかうおはしますおほちおとゝいときうにさかなくおはしてその御まゝになりなん世をいかならむとかむたちめ殿上人みなおもひなけく中宮大将殿なとはましてすくれてものもおほしわかれすのち　くの御わさなとけうしつかうまつり給さまもそこらのみこたちの御中にすくれたまへるをことはりなからいとあはれに世人もみたてまつる藤の御そにやつれ給へるにつけてもかきりなくきよらに心くるしけなりこそことしとうちつゝきかゝる事をみ給によもいとあちきなうおほさるれとかかるついてにもまつおほしたたるゝ事はあれと又さま　くの御ほたしおほかり御四十九日までは女御みやす所たちみな院につとひ給へりつるをすきぬれはちり　くにまかて給しはすの廿日なれはおほかたのよの中とちむる空のけしきにつけてもましてはるゝよなき中宮の御心のうちなりおほきさきの御心もしり給へれは心にまかせ給へらむ世のはしたなくすみうからむをおほすよりもなれきこえ給へるとしころ

の御ありさまを思ひいてきこえ給はぬときのまなきにかくてもおはしますましうみなほか　くへといて給ほとにかなしき事かきりなし宮は三条の宮にわたり給御むかへに兵部卿の宮まいり給へりゆきうちちり風はけしうて院のうちやう　く人めかれ行てしめやかなるに大将殿こなたにまいり給てふるき御物かたりきこえ給おまへの五えうのゆきにしほれてした葉かれたるをみたまひてみこ　かけひろみたのみしまつやかれにけんした葉ちり行としの暮哉なにはかりのことにもあらぬにおりからものあはれにて大将の御そていたうぬれぬいけのひまなうこほれるに

　さえわたる池のかゝみのさやけきにみなれしかけをみぬそかなしきとおほすまゝにあまりわか　くしうそあるや王命婦

　としくれていはゐの水もこほりとちみし人かけのあせも行かなそのついてにいとおほかれとさのみかきつゝくへき事かはわたらせ給きしきかはらねと思なしにあはれにてふるき宮は返てたひ心ちし給にも御さとすみたえたるとし月のほとおほしめくらさるへしとしかへりぬれと世中いまめかしき事なくしつかなりまして大将殿はものうくてこもりゐ給へりちもくのころなと院の御時をはさらにもいはすとしころおとるけちめなくてみかとのわたり所なくたちこみたりしむま車うすらきてとのゐ物のふくろおさ　くみえすしたしきけいしともはかりことにいそく事なけにてあるをみ給にもいまよりはかくこそはと思やられてものすさましくなむみくしけとのは二月にないしのかみになり給ぬ院の御思にやかてあまになり給へるかはりなりけりやむことなくもてなし人からもいとよくおはすれはあまたまいりあつまり給中にもすくれて時めき給后はさとかちにおはしまいてまいり給ふときの御つほねにはむめつほをしたれはこきてんにはかむの君すみ給ふとう花殿のむもれたりつるにはれはれしうなりて女坊なともかすしらすつとひまいりていまめかしうはなやき給へと御心の中は思ひのほかなりしことゝもをわすれかたくなけき給いとしのひてかよはし給ふ事はなをおなしさまなるへしものゝきこえもあらはいかならむとおほしなかられいの御くせなれはいましも御心さしまさるへかめり院のおはしましつる世こそはゝかり給つれ后の御心いちはやくてかた　くおほしつめたる事ともものむくひせむとおほすへかめりことにふれてはしたなきことのみいてくれはかゝるへきこととはおほししかとみしり給はぬ世のうさにたちまふへくもおほされす左のおほいとのもすさましき心ちし給てことにうちにもまいり給はすこひめ君をひきよきてこの大将の君にきこえつけ給ひし御心をきさきはおほしをきてよろしうも思

きこえ給はすおとゝの御中ももとよりそは　くしうおはするにこ院の御世には
我まゝにおはせしを時うつりてしたりかほにおはするをあちきなしとおほしたる
ことはりなり大将はありしにかはらすわたりかよひ給ひてさふらひし人人を
も中　くにこまかにおほしをきてわか君をかしつき思きこえ給へる事かきりな
けれはあはれにありかたき御心といとゝいたつききこえ給事ともおなしさまな
りかきりなき御おほえのあまりものさはかしきまていとまなけにみえ給しをか
よひ給しところ　くもかた　くにたえ給事ともありかる　くしき御忍ひありき
もあいなうおほしなりてことにし給はねはいとのとやかにいましもあらまほし
き御ありさまなりにしのたいのひめ君の御さいはいを世人もめてきこゆ少納言
なとも人しれすこあまうへの御いのりのしるしとみたてまつるちゝみこも思さ
まにきこえかはし給むかひはらのかきりなくとおほすははか　くしうもえあら
ぬにねたけなる事おほくてまゝはゝのきたのかたはやすからすおほすへしもの
かたりにことさらにつくりいてたるやうなる御ありさまなり斎院は御ふくにて
おりゐ給にしかはあさかほのひめ君はかはりにゐ給にきかものいつきにはそむ
わうのゐたまふれいおほくもあらさりけれとさるへき女みこやおはせさりけむ
大将の君とし月ふれと猶御こゝろはなれ給はさりつるをかうすちことになり給
ぬれはくちおしくとおほす中将にをとつれ給事もおなしことにて御ふみなとは
たえさるへしむかしにかはる御ありさまなとをはことになにともおほしたらす
かやうのはかなし事ともをまきるゝことなきまゝにこなたかなたとおほしなや
めりみかとは院の御ゆいこむたかへすあはれにおほしたれとわかうおはします
うちにも御心なよひたるかたにすきてつよき所おはしまさぬなるへしはゝきさ
きおほちおとゝとり　くし給事はえそむかせ給はすよのまつりこと御心にかな
はぬやうなりわつらはしさのみまされとかむの君は人しれぬ御心しかよへはわ
りなくてとおほつかなくはあらす五たんのみすほうのはしめにてつゝしみおは
しますひまをうかゝひてれいの夢のやうにきこえ給かのむかしおほえたるほそ
とのゝつほねに中納言の君まきらはしていれたてまつる人めもしけきころなれ
はつねよりもはしちかなる空おそろしうおほゆあさゆふにみたてまつる人たに
あかぬ御さまなれはましてめつらしきほとにのみある御たいめのいかてかはを
ろかならむ女の御さまもけにそめてたき御さかりなるおもりかなるかたはいか
ゝあらむおかしうなまめきわかひたる心ちしてみまほしき御けはひなりほとな
くあけゆくにやとおほゆるにたゝこゝにしもとのゐ申さふらふとこはつくるな
りまたこのわたりにかくろへたるこのゑつかさそあるへきはらきたなきかたへ

のをしへをこするそかしと大将はきゝ給をかしきものからわつらはしこゝかしこたつねありきてとらひとつと申なり女君

心から方　くそてをぬらすかなあくとをしふるころにつけてもとのたまふさまはかなたちていとをかし

なけきつゝわかよはかくてすくせとやむねのあくへき時そともなくしつ心なくていてたまひぬ夜ふかきあかつき月夜のえもいはすきりわたれるにいといたうやつれてふるまひなし給へるしもにるものなき御ありさまにて承香殿の御せうとのとう少将ふちつほよりいてゝ月のすこしくまあるたてしとみのもとにたてりけるをしらてすき給けんこそいとをしけれもときゝこゆるやうもありなんかしかやうのことにつけてももてはなれつれなき人の御心をかつはめてたしと思ひきこえ給物からわか心のひく方にては猶つらう心うしとおほえ給をりおほかり内にまいり給はん事はうゐ　くしく所せくおほしなりて春宮をみたてまつり給はぬをおほつかなくおもほえ給又たのもしき人もゝのし給はねはたゝこの大将の君をそよろつにたのみきこえ給へるに猶このにくき御心のやまぬにともすれは御むねをつふし給つゝいさゝかもけしきを御らんししらすなりにしをおもふたにいとおそろしきにいまさらにまたさる事のきこえありて我身はさるものにて春宮の御ためにかならすよからぬこといてきなんとおほすにいとおそろしけれは御いのりをさへせさせてこのこと思やませたてまつらむとおほしいたらぬ事なくのかれ給をいかなるおりにかありけんあさましうてちかつきまいり給へり心ふかくたはかり給けん事をしる人なかりけれは夢のやうにそありけるまねふへきやうなくきこえつゝけ給へと宮いとこよなくもてはなれきこえ給てはて　くは御むねをいたうなやみ給へはちかうさふらひつる命婦弁なとそあさましうみたてまつりあつかふおとこはうしつらしと思きこえ給事かきりなきにきしかた行さきかきくらす心ちしてうつし心うせにけれはあけはてにけれといて給はすなりぬ御なやみにおとろきて人〳〵ちかうまいりてしけうまかへはわれにもあらてぬりこめにをしいれられておはす御そともかくしもたる人の心ちともいとむつかし宮はものをいとわひしとおほしけるに御けあかりて猶なやましうせさせ給兵部卿宮大夫なとまいりてそうめせなとさはくを大将いとわひしうきゝおはすからうしてくれ行程にそおこたり給へるかくこもりゐ給へらむとはおほしもかけす人〳〵も又御心まとはさしとてかくなんともまうさぬなるへしひるのおましにいさりいててはしますよろしうおほさるゝなめりとて宮もまかて給ひなとしておまへ人すくなになりぬれいもけちかくならさせ給人すくな

けれはこゝかしこのものゝうしろなとにそさふらふ命婦の君なとはいかにたはかりていたしたてまつらむこよひさへ御けあからせ給はんいとおしうなとうちさゝめきあつかふ君はぬりこめのとのほそめにあきたるをやおらをしあけて御屏風のはさまにつたひ入給ぬめつらしくうれしきにも涙おちてみたてまつり給ふなをいとくるしうこそあれ世やつきぬらむとてとのかたをみいたし給へるかたはらめいひしらすなまめかしうみゆ御くたものをたにとてまいりすへたりはこのふたなとにもなつかしきさまにてあれとみいれたまはす世中をいたうおほしなやめるけしきにてのとかになかめいり給へるいみしうらうたけなりかむさしかしらつき御くしのかゝりたるさまかきりなきにほはしさなとたゝかのたいのひめ君にたかふ所なしとしころすこし思ひわすれ給へりつるをあさましきまておほえ給へるかなとみ給まゝにすこしもの思のはるけところある心ちし給けたかうはつかしけなるさまなともさらにこと人ともおもひわきかたきを猶かきりなくむかしよりおもひしめきこえてし心の思ひなしにやさまことにいみしうねひまさり給にけるかなとたくひなくおほえ給に心まとひしてやをらみちやうのうちにかゝつらひ入て御そのつまをひきならし給けはひしるくさとにほひたるにあさましうむくつけうおほされてやかてひれふし給へりみたにむき給へかしと心やましうつらうてひきよせ給へるに御そをすへしをきてゐさりのき給に心にもあらす御くしのとりそへられたりけれはいと心うくすくせのほとおほしられていみしとおほしたりおとこもこゝらよをもてしつめ給ふ御心みなみたれてうつしさまにもあらすよろつのことをなくなくうらみきこえ給へとまことに心つきなしとおほしていらへもきこえ給はすたゝ心ちのいとなやましきをかゝらぬおりもあらはきこえてむとのたまへとつきせぬ御こゝろの程をいひつゝけ給さすかにいみしときゝ給ふしもましるらんあらさりしことにはあらねとあらためていとくちおしうおほさるれはなつかしきものからいとようのたまひのかれてこよひもあけゆくせめてしたかひきこえさらむもかたしけなく心はつかしき御けはひなれはたゝかはかりにてもとき　くいみしきうれへをたにはるけ侍ぬへくはなにのおほけなき心も侍らしなとたゆめきこえ給へしなのめなる事たにかやうなるなからひはあはれなる事もそふなるをましてたくひなけなりあけはつれはふたりしていみしき事ともをきこえ宮はなかはゝなきやうなる御けしきの心くるしけれは世中にありときこしめされむもいとはつかしけれはやかてうせ侍なんも又この世ならぬつみとなり侍ぬへき事なときこえ給もむくつけきまておほしいれり

あふことのかたきをけふにかきらすはいまいく世をかなけきつゝへん御ほたしにもこそときこえ給へはさすかにうちなけき給て

なかきよのうらみを人にのこしてもかつは心をあたとしらなむはかなくひなさせ給へるさまのいふよしなき心ちすれと人のおほさむところもわか御たためもくるしけれはわれにもあらていて給ぬいつこをおもてにてかはまたもみえたてまつらんいとおしとおほししるはかりとおほして御ふみもきこえたまはすうちたえて内春宮にもまいり給はすこもりおはしておきふしいみしかりける人の御心かなと人わろく恋しうかなしきに心たましゐもうせにけるにやなやましうさへおほさるもの心ほそくなそや世にふれはうさこそまされとおほしたつにはこの女君のいとらうたけにてあはれにうちたのみきこえ給へるをふりすてむ事いとかたし宮もそのなこりれいにもおはしまさすかうことさらめきてこもりゐをとつれ給はぬを命婦なとはいとおしかりきこゆ宮も春宮の御ためをおほすには御心をき給はむ事いとおしく世をあちきなきものに思ひなり給はゝひたみちにおほしたつ事もやとさすかにくるしうおほさるへしかゝる事たえすはいとゝしき世にうき名さへもりいてなむおほきさきのあるましきことにの給なるくらゐをもさりなんとやう　くおほしなる院のおほしの給はせしさまのなのめならさりしをおほしいつるにもよろつのことありしにもあらすかはりゆく世にこそあめれ戚夫人のみけむめのやうにはあらすともかならす人わらへなる事はありぬへき身にこそあめれなと世のうとましくすくしかたうおほさるれはそむきなむことをおほしとるに春宮みたてまつらておもかはりせむことあはれにおほさるれはしのひやかにてまいり給へり大将の君はさらぬことたにおほしよらぬ事なくつかうまつり給を御心地なやましきにことつけて御をくりにもまいり給はすおほかたの御とふらひはおなしやうなれとむけにおほしくしにけると心しるとちはいとおしかりきこゆ宮はいみしううつくしうおとなひ給てめつらしううれしとおほしてむつれきこえ給をかなしとみたてまつり給にもおほしたつすちはいとかたけれとうちわたりをみ給につけても世のありさまあはれにはかなくうつりかはる事のみおほかりおほきさきの御心もいとわつらはしくてかくいて入給にもはしたなくことにふれてくるしけれは宮の御ためにもあやうくゆゝしうよろつにつけておもほしみたれて御らむせてひさしからむほとにかたちのことさまにてうたてけにかはりて侍らはいかゝおほさるへきときこえ給へは御かほうちまもり給てしきふかやうにやいかてかさはなり給はんとゑみての給ふいふかひなくあはれにてそれはおいて侍れはみにくきそさはあらてかみはそれ

よりもみしかくてくろききぬなとをきてよゐのそうのやうになり侍らむとすれはみたてまつらむ事もいとゝひさしかるへきそとてなき給へはまめたちてひさしうおはせぬは恋しきものをとて涙のおつれははつかしとおほしてさすかにそむき給へる御くしはゆら　くときよらにてまみのなつかしけににほひ給へるさまおとなひ給まゝにたゝかの御かほをぬきすへ給へり御はのすこしくちてくちのうちくろみてゑみ給へるかほりうつくしきは女にてみたてまつらまほしうきよら也いとかうしもおほえ給へるこそ心うけれとたまのきすにおほさるゝも世のわつらはしさの空おそろしうおほえ給也けり大将の君は宮をいと恋しう思ひきこえ給へとあさましき御心のほとをとき　くは思しるさまにもみせたてまつらむとねんしつゝすくし給に人わるくつれ　くにおほさるれは秋ののもみたまひかてら雲林院にまうて給へり故はゝ宮すん所の御せうとのりしのこもり給へるはうにて法文なとよみをこなひせむとおほして二三日おはするにあはれなる事おほかりもみちやう　くいろつきわたりて秋の野のいとなまめきたるなとみ給てふるさともわすれぬへくおほさるほうしはらのさえあるかきりめしいてゝろむきせさせてきこしめさせ給所からにいとゝ世中のつねなさをおほしあかしてもなをうき人しもそとおほしいてらるゝおしあけかたの月影にほうしはらのあかたてまつるとてから　くとならしつゝきくの花こきうすきもみちなとおりちらしたるもはかなけなれとこのかたのいとなみはこの世もつれ　くならすのちの世はたたのもしけなりさもあちきなき身をもてなやむかななとおほしつゝけ給りしのいとたうときこゑにて念仏衆生摂取不捨とうちのへてをこなひ給へるはいとうらやましけれはなそやとおほしなるにまつひめ君の心にかゝりておもひいてられ給そいとわろき心なるやれいならぬ日かすもおほつかなくのみおほさるれは御文はかりそしけうきこえ給めるゆきはなれぬへしやと心み侍道なれとつれ　くもなくさめかたう心ほそさまさりてなむきゝさしたる事ありてやすらひ侍ほといかにになとみちのくにかみにうちとけかき給へるさへそめてたき

あさちふの露のやとりに君をゝきてよもの嵐そしつ心なきなとこまやかなるに女君もうちなき給ぬ御返ししろきしきしに

風ふけはまつそみたるゝ色かはるあさちか露にかゝるさゝかにとのみありて御手はいとおかしうのみなりまさるものかなとひとりこちてうつくしとほゝゑみ給つねにかきかはし給へはわか御てにいとよくにていますこしなまめかしう女しき所かきそへ給へりなに事につけてもけしうはあらすおほしたてたりかしとおもほすふきかふ風もちかきほとにて斎院にもきこえ給けり中将の君にか

くたひの空になむもの思にあくかれにけるをおほししるにもあらしかしなとうらみ給ておまへには

かけまくはかしこけれともその神のあきおもほゆるゆふたすきかなむかしをいまにと思たまふるもかひなくとりかへされむものゝやうにとなれ　くしけにからの浅みとりのかみにさかきにゆふつけなとかう　くしうしなしてまいらせ給御かへり中将まきるゝ事なくてきしかたのことを思たまへいつるつれ　くのまゝにはおもひやりきこえさする事おほく侍れとかひなくのみなむとすこし心とゝめておほかりおまへのはゆふのかたはしに

その神やいかゝはありしゆふたすき心にかけてしのふらんゆへちかき世にとそある御てこまやかにはあらねとらう　くしうさうなとおかしうなりにけりまして朝かほもねひまさり給へらむかしとおもほゆるもたたならすおそろしやあはれこのころそかしのゝ宮のあはれなりしことゝおほしいてゝあやしうやうの物と神うらめしうおほさるゝ御くせのみくるしきそかしわりなうおほさはさもありぬへかりしとしころはのとかにすくい給ていまはくやしうおほさるへかめるもあやしき御心なりや院もかくなへてならぬ御心はへをみしりきこえ給へれはたまさかなる御返なとはえしもゝてはなれきこえ給ましかめりすこしあひなき事なりかし六十巻といふふみよみ給ひおほつかなき所　くとかせなとしておはしますを山寺にはいみしき光おこなひいたしたてまつれりとほとけの御めんほくありとあやしのほうしはらまてよろこひあへりしめやかにて世中をおもほしつゝくるにかへらむ事もゝのうかりぬへけれと人ひとりの御事おほしやるかほたしなれはひさしうもえおはしまさて寺にもみす経いかめしうせさせ給あるへきかきりかみしものそうともそのわたりの山かつまてものたひたうとき事のかきりをつくしていて給みたてまつりをくるとてこのもかのもにあやしきしはふるひともゝあつまりてゐて涙をおとしつゝみたてまつるくろき御車のうちにてふちの御たもとにやつれ給へれはことにみえ給はねとほのかなる御ありさまを世になく思きこゆへかめり女君はひころのほとにねひまさり給へる心ちしていといたうしつまり給て世の中いかゝあらむとおもへるけしきの心くるしうあはれにおほえ給へはあいなき心のさま　くみたるゝやしるからむ色かはるとありしもらうたうおほえてつねよりことにかたらひきこえ給山つとにもたせ給へりしもみちおまへのに御らんしくらふれはことにそめましける露の心もみすくしかたうおほつかなさも人わるきまておほえ給へはたゝおほかたにて宮にまいらせ給命婦のもとにいらせ給にけるをめつらしき事とうけ給はるに宮のあひ

たの事おほつかなくなり侍にけれはしつ心なく思給へなからをこなひもつとめむなと思たち侍し日かすを心ならすやとてなん日ころになり侍にけるもみちはひとりみ侍ににしきくらう思たまふれはなむおりよくて御らんせさせ給へなとありけにいみしきえたともなれは御めとまるにれいのいさゝかなるものありけり人〻みたてまつるに御かほの色もうつろひて猶かゝる心のたえ給はぬこそいとうとましけれあたら思ひやりふかうものし給人のゆくりなくかうやうなる事おり　くませ給を人もあやしとみるらむかしと心つきなくおほされてかめにさゝせてひさしのはしらのもとにおしやらせ給つおほかたのことゝも宮の御事にふれたる事なとをはうちたのめるさまにすくよかなる御かへりはかりきこえ給へるをさも心かしこくつきせすもとうらめしうはみ給へとなに事もうしろみきこえならひ給にたれは人あやしとみとかめもこそすれとおほしてまかて給へきひまいり給へりまつ内の御方にまいり給へれはのとやかにおはしますほとにてむかしいまの御物かたりきこえ給御かたちも院にいとようにたてまつり給ていますこしなまめかしきけそひてなつかしうなこやかにそおはしますかたみにあはれとみたてまつり給かむの君の御事もなをたえぬさまにきこしめしけしき御らんするおりもあれとなにかはいまはしめたる事ならはこそあらめさも心かはさむににけなかるましき人のあはひなりかしとそおほしなしてとかめさせ給はさりけるよろつの御物かたり文の道のおほつかなくおほさるゝ事ともなととはせ給て又すき　くしきうたかたりなともかたみにきこえかはさせ給ついてにかの斎宮のくたり給ひしひの事かたちのおかしくおはせしなとかたらせ給にわれもうちとけて野の宮のあはれなりしあけほのもみなきこえいて給てけり廿日の月やう　くさしいてゝおかしきほとなるにあそひなともせまほしきほとかなとのたまはす中宮のこよひまかて給なるとふらひにものし侍らむ院ののたまはせをく事はへりしかは又うしろみつかうまつる人も侍らさめるに春宮の御ゆかりいとおしう思給へられ侍てとそうし給春宮をはいまのみこになしてなとのたまはせをきしかはとりわきて心さしものすれとことにさしわきたるさまにもなに事をかはとてこそとしのほとよりも御てなとのわさとかしこうこそものし給へけれなにことにもはか　くしからぬ身つからのおもておこしになむとのたまはすれはおほかたし給わさなといとさとくおとなひたるさまにものし給へとまたいとかたなりになとその御ありさまもそうし給てまかて給に大宮の御せうとの藤大納言のこの頭弁といふかよにあひはなやかなるわか人にておもふ事なきなるへしいもうとのれいけいてんの御かたにゆくに大将の御さきをしのひやかに

をへはしはしたちとまりて白虹日をつらぬけり太子をちたりといとゆるらかに
うちすしたるを大将いとまはゆしときゝ給へととかむへき事かはきさきの御け
しきはいとおそろしうわつらはしけにのみきこゆるをかうしたしき人〻もけし
きたちいふへかめる事とももあるにわつらはしうおほされけれとつれなうのみ
もてなし給へりおまへにさふらひていまゝてふかし侍にけるときこえ給月のは
なやかなるにむかしかうやうなるおりは御あそひせさせ給ていまめかしうもて
なさせ給しなとおほしいつるにおなしみかきのうちなからかはれる事おほくか
なし

九重に霧やへたつる雲のうへの月をはるかに思やるかなと命婦してきこえ
つたへ給ふほとなけれは御けはひもほのかなれとなつかしうきこゆるにつらさ
もわすられてまつ涙そおつる

月影はみし夜の秋にかはらぬをへたつる霧のつらくもあるかなかすみも人
のとかむかしも侍ける事にやなときこえ給宮は春宮をあかす思きこえ給てよろ
つの事をきこえさせ給へとふかうもおほしいれたらぬをいとうしろめたく思ひ
きこえ給れいはいとゝくおほとのこもるをゐて給まてはおきたらむとおほすな
るへしうらめしけにおほしたれとさすかにえしたひきこえ給はぬをいとあはれ
とみたてまつり給大将頭弁のすしつることを思ふに御心のおにゝ世中わつらは
しうおほえ給てかむの君にもをとつれきこえ給はてひさしうなりにけりはつし
くれいつしかとけしきたつにいかゝおほしけんかれより

木からしのふくにつけつつまちしまにおほつかなさのころもへにけりとき
こえ給へりおりもあはれにあなかちにしのひかき給へらむ御心はへもにくから
ねは御つかひとゝめさせてからのかみともいれさせ給へるみすしあけさせ給い
てなへてならぬをえりいてつつふてなとも心ことにひきつくろひ給へるけしき
えんなるをおまへなる人〻たれはかりならむとつきしろふきこえさせてもかひ
なきものこりにこそむけにくつをれにけれ身のみものうきほとに

あひみすてしのふるころのなみたをもなへてのそらのしくれとやみる心の
かよふならはいかになかめの空もものわすれし侍らむなとこまやかになりにけ
りかうやうにおとろかしきこゆるたくひおほかめれとなさけなからすうちかへ
りこち給て御心にはふかうしまさるへし中宮は院の御はてのことにうちつゝき
御八講のいそきをさま〴〵に心つかひせさせ給けりしも月のついたち比御こき
なるに雪いたうふりたり大将殿より宮にきこえ給

別にしけふはくれともみし人にゆきあふほとをいつとたのまんいつこにも

けふはものかなしうおほさるゝほとにて御返あり

なからふるほとはうけれとゆきめくりけふはその世にあふ心ちしてことに

つくろひてもあらぬ御かきさまなれとあてにけたかきはおもひなしなるへしす

ちかはりいまめかしうはあらねと人にはことにかゝせ給へりけふはこの御事も

思ひけちてあはれなる雪のしつくにぬれ　くをこなひ給十二月十よ日はかり中

宮の御はかうなりいみしうたうとし日ゝにくやうせさせ給御経よりはしめたま

のちくらのへうしちすのかさりもよになきさまにとゝのへさせ給へりさらぬ事

のきよらたに世のつねならすおはしませはましてことはり也仏の御かさり花つ

くゑのおほひなとまてまことのこくらく思やらるはしめの日は先帝の御れうつ

きの日ははゝきさきの御ためまたの日は院の御れう五巻の日なれはかんたちめ

なともよのつゝましさをえしもはゝかり給はていとあまたまいり給へりけふの

かうしは心ことにえらせ給へれはたきゝころほとよりうちはしめおなしういふ

事のはもいみしうたうとしみこたちもさま　くのほうもちささけてめくり給に

大将殿の御よういなとなをにるものなしつねにおなし事のやうなれとみたてま

つるたひことにめつらしからむをはいかゝはせむはての日わか御事を結願にて

世をそむき給よし仏に申させ給にみな人ゝおとろき給ぬ兵部卿宮大将の御心も

うこきてあさましとおほすみこはなかはのほとにたちていり給ぬ心つようおほ

したつさまの給てはつるほとに山の座主めしていむ事うけたまふへきよしの給

はす御をちのよかわのそうつちかうまいり給て御くしおろし給程に宮のうちゆ

すりてゆゝしうなきみちたりなにとなきおいおとろへたる人たにいまはとよを

そむく程はあやしうあはれなるわさをましてかねての御けしきにもいたし給は

さりつる事なれはみこもいみしうなき給まいり給へる人ゝもおほかたの事のさ

まもあはれたうとけれはみな袖ぬらしてそかへり給けるこ院のみこたちはむか

しの御ありさまをおほしいつるにいとゝあはれにかなしうおほされてみなとふ

らひきこえ給大将はたちとまり給てきこえいて給へきかたもなくくれまとひて

おほさるれとなとかさしもと人みたてまつるへけれはみこなといて給ぬるのち

にそおまへにまいり給へるやう　く人しつまりて女ほうともはなうちかみつゝ

所ゝにむれゐたり月はくまなきに雪のひかりあひたるにはのありさまもむかし

の事おもひやらるゝにいとたへかたうおほさるれといとようおほししつめてい

かやうにおほしたゝせ給てかうにはかにはときこえ給いまはしめておもひ給ふ

ることにもあらぬをものさはかしきやうなりつれは心みたれぬへくなとれいの

命婦してきこえ給みすのうちのけはひそこらつとひさふらふ人のきぬのをとな

ひしめやかにふるまひなしてうちみしろきつゝかなしけさのなくさめかたけにもりきこゆるけしきことはりにいみしときゝ給風はけしう吹ふゝきてみすのうちのにほひいとものふかきくろほうにしみてみやうかうのけふりもほのかなり大将の御にほひさへかほりあひめてたくこくらく思ひやらるる世のさまなり春宮の御つかひもまいれりの給ひしさま思ひいてきこえさせ給にそ御心つよさもたへかたくて御返もきこえさせやらせ給はねは大将そ事くはへきこえ給けるたれも　くあるかきり心おさまらぬほとなれはおほす事ともゝえうちいて給はす

　月のすむ雲井をかけてしたふともこの世のやみに猶やまとはむと思給へらるゝこそかひなくおほしたゝせ給へるうらめしさはかきりなうとはかりきこえ給て人　くちかうさふらへはさま　くみたるゝ心のうちをたにえきこえあらはし給はすいふせし

　おほふかたのうきにつけてはいとへともいつかこの世をそむきはつへきかつにこりつゝなとかたへは御つかひの心しらひなるへしあはれのみつきせねはむねくるしうてまかて給ぬとのにてもわか御かたにひとりうちふし給て御めもあはす世中いとはしうおほさるゝにも春宮の御事のみそ心くるしきはゝ宮をたにおほやけかたさまにとおほしをきしを世のうさにたへすかくなり給にたれはもとの御くらゐにてもえおはせし我さへみたてまつりすてゝはなとおほしあかすことかきりなしいまはかゝるかたさまの御てうととをこそはとおほせは年のうちにといそかせ給命婦の君も御ともになりにけれはそれも心ふかうとふらひ給くはしういひつゝけんにこと　くしきさまなれはもらしてけるなめりさるはかうやうのおりこそおかしきうたなといてくるやうもあれさう　くしやまいり給もいまはつゝましさうすらきて御身つからきこえ給おりもありけり思ひしめてし事はさらに御心にはなれねとましてあるまし事なりかしとしもかはりぬれはうちわたりはなやかに内えむたうかなときゝ給もののみあはれにて御をこなひしめやかにし給つゝのちの世の事をのみおほすにたのもしくむつかしかりし事はなれておもほさるつねの御ねむすたうをはさるものにてことにたてられたるみたうのにしのたいのみなみにあたりてすこしはなれたるにわたらせ給てとりわきたる御をこなひせさせ給大将まいり給へりあらたまるしるしもなく宮のうちのとかに人めまれにて宮つかさとものしたしきはかりうちうなたれてみなしにやあらむくしいたけにおもへりあをむまはかりそなをひきかへぬものにて女ほうなとのみけるところせうまいりつとひ給しかむたちめなと道をよきつゝひきすきてむかいのおほいとのにつとひ給ふをかゝるへき事なれとあは

れにおほさるゝに千人にもかへつへき御さまにてふかうたつねまいり給へるを
みるにあひなくなみたくまるまらうともいと物あはれなるけしきにうちみまは
し給てとみにものもの給はすさまかはれる御すまゐにみすのはし御き丁もあを
にひにてひま　くよりほのみえたるうすにひくちなしのそてくちなと中　くな
まめかしうおくゆかしう思ひやられ給とけわたるいけのうすこほりきしの柳の
けしきはかりはときをわすれぬなとさま　くなかめられ給てむへも心あるとし
のひやかにうちすし給へるまたなうなまめかし

　なかめかるあまのすみかとみるからにまつしほたるゝまつかうら島ときこ
え給へはおくふかうもあらすみなほとけにゆつりきこえ給へるおましところな
れはすこしけちかき心地して

　ありし世のなこりたになきうらしまにたちよる浪のめつらしきかなとの給
ふもほのきこゆれはしのふれと涙ほろ　くとこほれ給ぬ世をおもひすましたる
あま君たちのみるらむもはしたなけれはことすくなにていて給ぬさもたくひな
くねひまさり給かな心もとなき所なく世にさかへ時にあひ給し時はさるひとつ
ものにてなにゝつけてか世をおほししらむとをしはかられ給しをいまはいとい
たうおほししつめてはかなきことにつけてもものあはれなるけしきさへそはせ
給へるはあいなう心くるしうもあるかななとおいしらへる人ゝうちなきつゝめ
てきこゆ宮もおほしいつる事おほかりつかさめしのころこの宮の人は給はるへ
きつかさもえすおほかたのたうりにても宮の御給はりにてもかならすあるへき
かゝいなとをたにせすなとしてなけくたくひいとおほかりかくてもいつしかと
御くらゐをさりみふなとのとまるへきにもあらぬをことつけてかはる事おほか
りみなかねておほしすてゝしよなれと宮人ともゝより所なけにかなしとおもへ
るけしきともにつけてそ御心うこくおり　くあれとわか身をなきになしても春
宮の御世をたひらかにおはしまさはとのみおほしつゝ御をこなひたゆみなくつ
とめさせ給ふ人しれすあやうくゆゝしう思ひきこえさせ給事しあれは我にその
つみをかろめてゆるし給へと仏をねむしきこえ給によろつをなくさめ給大将も
しかみたてまつり給てことはりにおほすこのとのゝ人ともゝ又おなしきさまに
からき事のみあれは世中はしたなくおほされてこもりおはす左のおとゝもおほ
やけわたくしひきかへたる世のありさまにものうくおほして致仕のへうたてま
つり給をみかとは故院のやむ事なくおもき御うしろみとおほしてなかきよのか
ためときこえをき給し御ゆいこんをおほしめすにすてかたきものに思ひきこえ
給へるにかひなきことゝたひ　くもちゐさせ給はねとせめてかへさひ申給てこ

もりゐたまひぬいまはいとゝひとそうのみかへす　くさかえ給事かきりなしよのおもしとものし給へるおとゝのかく世をのかれ給へはおほやけも心ほそうおほされ世の人も心あるかきりはなけきけり御こともはいつれともなく人からめやすく世にもちいられて心地よけにものし給しをこよなうしつまりて三位中将なともよを思しつめるさまこよなしかの四の君をもなをかれ　くにうちかよひつゝめさましうもてなされたれは心とけたる御むこのうちにもいれ給はす思ひしれとにやこのたひのつかさめしにももれぬれといとしもおもひいれす大将殿かうしつかにておはするに世はゝかなきものとみえぬるをましてことはりとおほしなしてつねにまいりかよひ給つゝかくもむをもあそひをももろともにし給いにしへもゝのくるおしきまていとみきこえ給しをおほしいてゝかたみにいまもはかなきことにつけつゝさすかにいとみ給へり春秋のみと経をはさるものにてりんしにもさま　くたうとき事ともをせさせ給なとして又いたつらにいとまありけなるはかせともめしあつめてふみつくりゐむふたきなとやうのすさひわさともをもしなと心をやりてみやつかへをもおさ　くし給はす御心にまかせてうちあそひておはするを世中にはわつらはしき事ともやう　くいひいつる人ゝあるへしなつのあめのとかにふりてつれ　くなるころ中将さるへきしふともあまたもたせてまいり給へりとのにもふとのあけさせ給てまたひらかぬみすしとものめつらしき古集のゆへなからぬすこしえりいてさせ給てその道の人ゝわさとはあらねとあまためしたり殿上人も大かくのもいとおほうつとひて左右にこまとりにかたわかせ給へりかけものともなといとになくていとみあへりふたきもてゆくまゝにかたきゐんのもしともいとおほくておほえあるはかせともなとのまとふ所　くを時　くうちの給さまいとこよなき御さえのほとなりいかてかうしもたらひ給ひけんなをさるへきにてよろつの事人にすくれ給へるなりけりとめてきこゆつゐに右まけにけり二日はかりありて中将まけわさし給へりこと

　くしうはあらてなまめきたるひわりこともかけものなとさま　くにてけふもれいの人ゝおほくめしてふみなとつくらせ給はしのもとのさうひけしきはかりさきて春秋の花さかりよりもしめやかにおかしきほとなるにうちとけあそひ給中将の御このことしはしめて殿上するやつこゝのつはかりにてこゑいとおもろしくさうのふゑふきなとするをうつくしひもてあそひ給四の君はらの二らうなりけり世の人の思へるよせおもくておほえことにかしつけり心はへもかと　くしうかたちもおかしくて御あそひのすこしみたれゆく程にたかさこをいたしてうたふいとうつくし大将の君御そぬきてかつけ給れいよりはうちみたれ給へる

御かほのにほひにるものなくみゆうすものゝなをしひとへをきたまへるにすき
給へるはたつきましていみしうみゆるをとしおいたるはかせともなとゝをくみ
たてまつりて涙おとしつゝゐたりあはまし物をさゆりはのとうたふとちめに中
将御かはらけまいり給
　それもかとけさひらけたる初花におとらぬ君かにほひをそみるほをゑみて
とり給
　ときならてけさ咲はなは夏の雨にしほれにけらしにほふほとなくおとろへ
にたるものをとうちそうときてらうかはしくきこしめしなすをとかめいてつゝ
しゐきこえ給ふおほかめりし事ともゝかうやうなるおもりのまほならぬ事かす
　くにかきつくる心地なきわさとかつらゆきかいさめたうるるかたにてむつか
しけれはとゝめつみなこの御事をほめたるすちにのみやまとのもからのもつく
りつけたりわか御心地にもいたうおほしおこりて文王の子武王のおとうとゝう
ちすし給へる御なのりさへそけにめてたき成王のなにとかの給はむとすらむそ
れはかりやまた心もとなからむ兵部卿宮もつねにわたり給つゝ御あそひなとも
おかしうおはする宮なれはいまめかしき御あそひともなりそのころかむの君ま
かて給へりわらはやみにひさしうなやみ給てましなひなとも心やすくせんとて
なりけりすほうなとはしめてをこたり給ぬれはたれも　くうれしうおほすにれ
いのめつらしきひまなるをときこえかはし給てわりなきさまにてよな　くたい
めし給いとさかりにゝきわゝしきけはひし給へる人のすこしうちなやみてやせ
　くになり給へるほといとおかしけなりきさいの宮もひとところにおはするこ
ろなれはけはひいとおそろしけれとかゝることしもまさる御くせなれはいとし
のひてたひかさなりゆけはけしきみる人ゝもあるへかめれとわつらはしうて宮
にはさなむとけいせすおとゝはた思かけ給はぬに雨にはかにおとろ　くしうふ
りて神いたうなりさはくあかつきにとのゝきむたち宮つかさなとたちさはきて
こなたかなたの人めしけく女房ともゝをちまとひてちかうつとひまいるにいと
わりなくいて給はんかたなくてあけはてぬみ帳のめくりにも人ゝしけくなみゐ
たれはいとむねつふらはしくおほさる心しりの人ふたりはかり心をまとはす神
なりやみ雨すこしをやみぬるほとにおとゝわたり給てまつ宮の御かたにおはし
けるをむら雨のまきれにてえしり給はぬにかろらかにふとはひいり給てみすひ
きあけ給まゝにいかにそいとうたてありつる夜のさまに思ひやりきこえなから
まいりこてなむ中将宮のすけなとさふらひつやなとのたまふけはひのしたとに
あはつけきを大将はものゝまきれにも左のおとゝの御ありさまふとおほしくら

へられてたとしへなうそほゝゑまれ給けにいりはてゝものたまへかしなかむの
君いとわひしうおほされてやをらいさりいて給におもてのいたうあかみたるを
猶なやましうおほさるゝにやとみたまてなと御けしきのれいならぬものゝけな
とのむつかしきをすほうのへさすへかりけりとの給ふにうすふたあひなるおひ
の御そにまつはれてひきいてられたるをみつけ給てあやしとおほすに又たゝむ
かみのてならひなとしたるみきてうのもとにおちたりこれはいかなるものとも
そと御心おとろかれてかれはたれかそけしきことなるものゝさまかなたまへそ
れとりてたかそとみ侍らむとの給ふにそうちみかへりてわれもみつけ給へるま
きらはすへきかたもなけれはいかゝはいらへきこえ給はむわれにもあらておは
するをこなからもはつかしとおほすらむかしとさはかりの人はおほしはゝかる
へきそかしされといときうにのとめたるところおはせぬおととのおほしもまは
さすなりてたゝうかみをとり給まゝにきてうよりみいれ給へるにいといたうな
よひてつゝましからすそひふしたるをとこもありいまそやおらかほひきかくし
てとかうまきらはすあさましうめさましう心やましけれとひたをもてにはいか
てかあらはしたまはむめもくるゝ心地すれはこのたゝむかみをとりてしむてん
にわたり給ぬかむの君はわれかの心地してしぬへくおほさる大将殿もいとおし
うつゐにようなきふるまひのつもりて人のもときをおはむとする事とおほせと
女君の心くるしき御けしきをとかくなくさめきこえ給おとゝはおもひのまゝに
こめたる所おはせぬ本上にいとゝおいの御ひかみさへそひ給にこれはなに事に
かはとゝこほり給はんゆく　くと宮にもうれへきこえ給かう　くの事なむ侍こ
のたゝむかみは右大将のみてなりむかしも心ゆるされてありそめにける事なれ
と人からによろつのつみをゆるしてさてもみむといひ侍しおりは心もとゝめす
めさましけにもてなされにしかはやすからす思給へしかとさるへきにこそはと
てよにけかれたりともおほしすつましきをたのみにてかくほいのことくたてま
つりなからなをそのはゝかりありてうけはりたる女御なともいはせ給ぬをたに
あかすくちおしうおもひ給ふるに又かゝる事さへ侍けれはさらにいと心うくな
む思なり侍ぬるおとこのれいとはいひなから大将もいとけしからぬみ心なりけ
り斎院をも猶きこえをかしつゝしのひに御ふみかよはしなとしてけしきある事
なと人のかたり侍しをも世のためのみにもあらすわかためもよかるましき事な
れはよもさるおもひやりなきわさしいてられしとなむときのいうそくとあめの
したをなひかし給へるさまことなめれは大将のみ心をうたかひ侍らさりつるな
との給ふに宮はいとゝしき御心なれはいとものしき御けしきにてみかとゝきこ

ゆれとむかしよりみな人おもひおとしきこえて致仕のおとゝも又なくかしつく
ひとつむすめをこのかみの坊にておはするにはたてまつらておとうとの源氏に
ていときなきか元服のそひふしにとりわき又この君をもみやつかへにと心さし
て侍しにおこかましかりしありさまなりしをたれも　くあやしとやはおほした
りしみなかのみかたにこそ御心よせ侍めりしをそのほいたかふさまにてこそは
かくてもさふらひ給ふめれといとおしさにいかてさるかたにても人におとらぬ
さまにもてなしきこえんさはかりねたけなりし人のみる所もありなとこそは思
ひ侍つれとしのひてわか心のいるかたになひき給にこそは侍らめ斎院の御事は
ましてさもあらんなに事につけてもおほやけの御かたにうしろやすからすみゆ
るは春宮の御よ心よせことなる人なれはことはりになむあめるとすく　くしう
の給ひつゝくるにさすかにいとおしうなときこえつる事そとおほさるれはさは
れしはしこのこともらし侍らし内にもそうせさせ給なかくのことつみ侍ともお
ほしすつましきをたのみにてあまえて侍なるへしうち　くにせいしの給はむに
きゝ侍らすはそのつみにたゝ身つからあたり侍らむなときこえなをし給へとこ
とに御けしきもなをらすかくひと所におはしてひまもなきにつゝむところなく
さていりものせらるらむはことさらにかろめろうせらるゝにこそはとおほしな
すにいとゝいみしうめさましくこのついてにさるへき事ともかまへいてむによ
きたよりなりとおほしめくらすへし